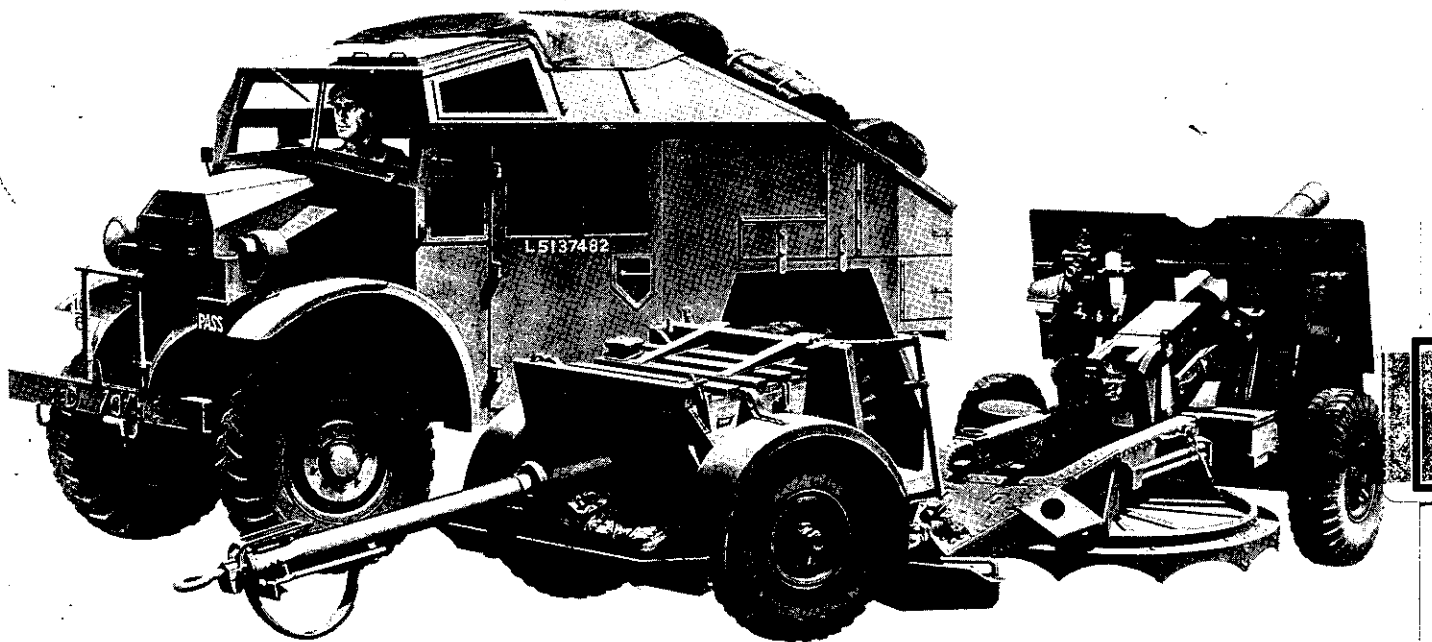


BRITISH 25 PDR. FIELD GUN & QUAD GUN TRACTOR



1/35 MILITARY MINIATURES SERIES NO.44

イギリス・25ポンド砲とクォード・ガントラクター

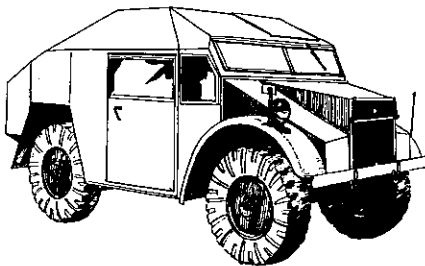


以前の戦争よりも大規模な作戦行動が出現し、内燃機関の開発が続けられた第一次大戦からは、数多くの教訓が学び取られることになった。このことは、世界各国の陸軍の砲兵科については特に顕著であった。機動火砲は、昼夜を問わず、かつ、気象状況のいかんにかかわらず、偵察科がつきとめた重要地点と迅速に交戦することが可能であった。かく開発された特殊教練により、砲兵は、自己の射界を最も戦略的な要衝——荷物の下の「てこ」のように、きわめて大きな効果が得られる地点——に合わせるために、総合的な測量を迅速に行なうよう訓練された。

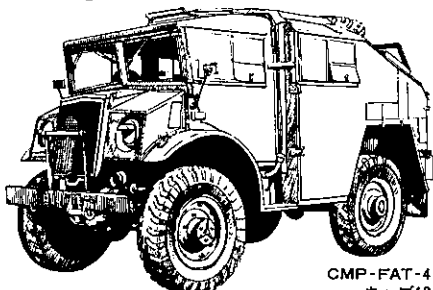
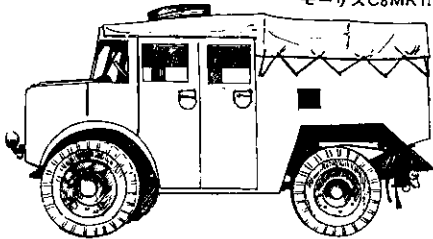
両大戦間の時期に、真剣な砲手達は、砲の加害効果を高めるべき旨の新たな要求を出した。しかしながら、これらの要求を全部満たすことは費用の面で困難があったため、要求された改良は必然的に少しずつ、除々に行なわれることになった。急速照準の対戦車連射砲が開発された。射程を大きくし、後座を小さくするために、砲口制退器が導入されたが、経済的な観点から、馬匹牽引砲が依然として使用されていた。

1930年代の末期に最初の野砲牽引車(FAT)、クォードが登場した。1938年、ガイ・モーターズ社は「クォード・アント」4輪駆動FATを生産した。1938年から1939年にかけてモリス・コマーシャルC8MK1がこれに続いた。「クォード・アント」は1943年まで生産が続けられた。シャシはガイ装甲車のものを改造して使用してあった。最も多くの台数が生産されたのはカナダであった。

ガイ・クォード・アント 4X4 FAT



モリスC8MK11

CMP-FAT-4
キャブ13

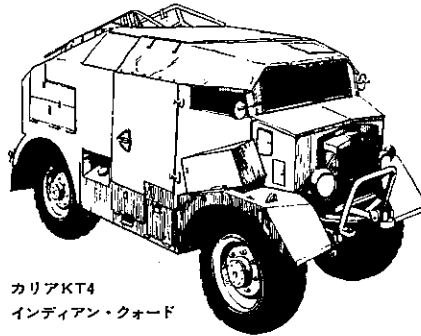
当初、これらのFATは、イギリス型と同じ様式のシボレーおよびフォードのシャシを流用していたが、1942年からは、標準型のカナディアン・ミリタリー・パターン・キャブを用いて生産されるようになった。1944年後半、モリス・コマーシャル型とCMP型は両方とも、キャンバス・トップを付けた四角形の輪郭を持つ新しい車体で生産された。いろいろな会社が様々な時期にこれらの多様なトラクターの種々の変形型を生産している。これらのトラクターは多くの国々に供給されており、従って、世界中で広く使用された。終戦後、日本の警察にも治安維持用として多数が売渡されている。これらの車両はすべて、運転手1名、助手1名、乗員4名その他、必要な装備を乗せることができるように作られていた。基本的には、これらの車両は砲の牽引用に製造されたものであり、直接の「前任者」である馬匹牽引による火器運搬チームの特徴の多くを備えている必要があった。

要求されたこれらの特徴とは、一般に、優れた路外性能、高度な機動性および砲をきわめて迅速に戦闘に参加させる手段である。一般にFATで牽引された砲と前車は、18ポンド、20ポンドおよび25ポンドの榴弾砲であったが、中でも25ポンド榴弾砲がしばしば牽引された。

イギリス25ポンド榴弾砲はイギリス陸軍に広く使用されたのであるが、他の国の陸軍にも供給されている。この砲は1940年に初めて実戦に参加したが、この砲とその指揮官が打立てた手柄のひとつとして、アラメインに

おける有名な決定的な弾幕砲火を上げることができる。包囲突破計画が作成される前のこの大規模な戦いにおけるモントゴメリー將軍麾下の第8軍は、全部で850門の野砲と60門の中口径砲を備えていた。これらの砲に対抗したのは、ドイツ・イタリア連合師団の野砲550門と重砲30門であった。このイギリス軍の砲のうち、408門の25ポンド砲は弾幕砲火に使用されたが、他の砲の多くは予備として控置され、または、いつでも動けるように車に搭載してあった。

使用する際には、25ポンド砲は通常、脚架を動かすことによって360°旋回させることのできる円形の操作台に搭載された。この砲の初期型には砲口制退器は付いていなかったが、後期型はマルチバップル（多そらせ板）砲口制退器を装備していた。操作台を使用しない場合には、砲の旋回は8°、俯仰は45°に限定された。この最後の要素のために、山地やジャングル地形での使用が制限された。しかし、その大きな多様性のおかげで、この砲はイギリス陸軍が開発した兵器の中でも最も広く使用され、かつ、最も長く使用されたもののひとつになった。この砲を最初に開発したのはイギリス兵器研究開発庁であり、最初のプロトタイプが登場したのは1935年である。試験は1935年から1936年に行なわれた。この砲は、105mm自走砲アポットに取って代えられるまで、ラインのイギリス軍の標準装備として使用された。この砲の前車は、クォードに取付けることができない弾薬、操作台その他の装備の運搬に用いられた。



キャリアKT4
インディアン・クォード

エンジン：フォードV型8気筒サイドバルブ
水冷・ガソリン
出力 85馬力
高速機：前進4段 後進1段

25P・D・R フィールド・ガン
全長：4646mm 全幅：2133mm
全高：1701mm 砲身長：2476mm
重量：1741.8kg
口径：88mm
射程距離：12.3km

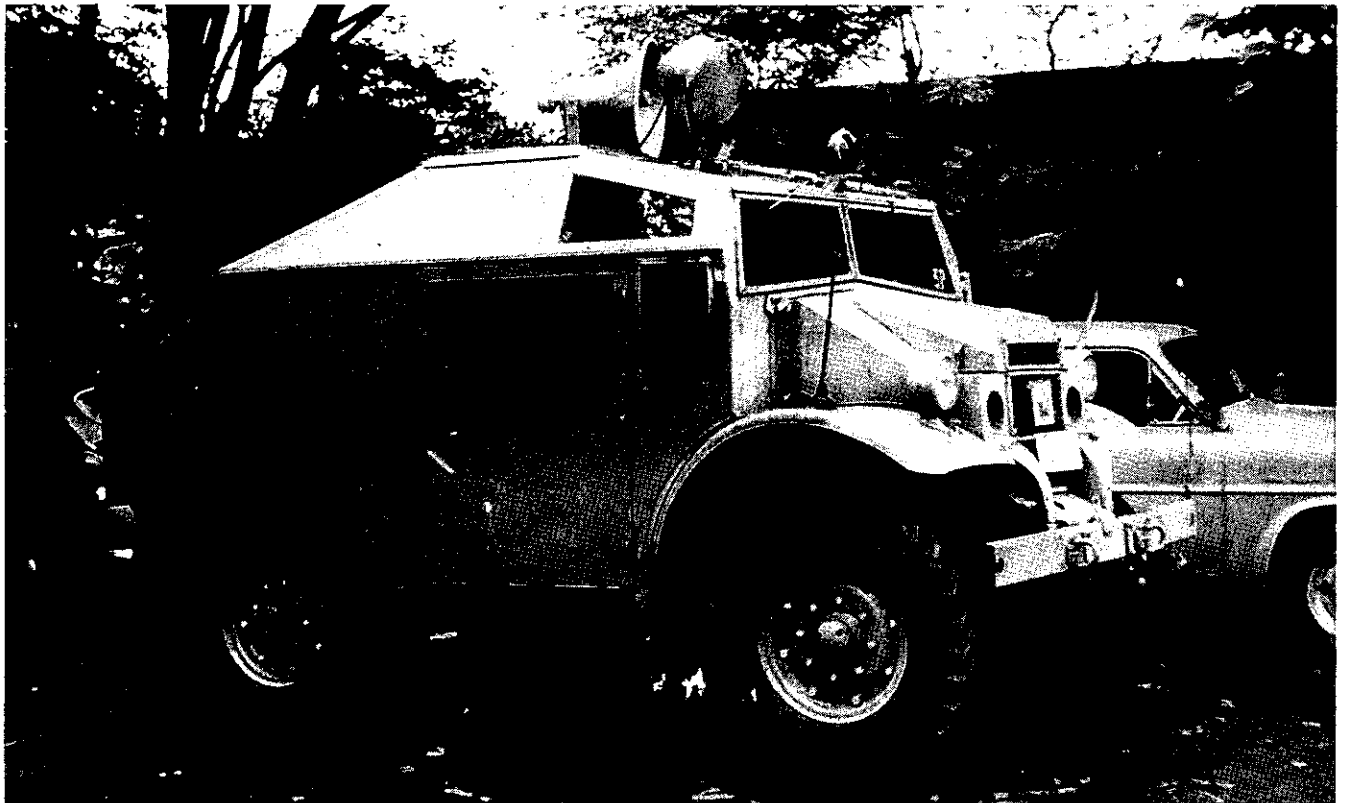
主要データー

フォードFAT-2

全長：4331mm 全幅：2235mm

全高：2286mm ホイールベース：2572mm

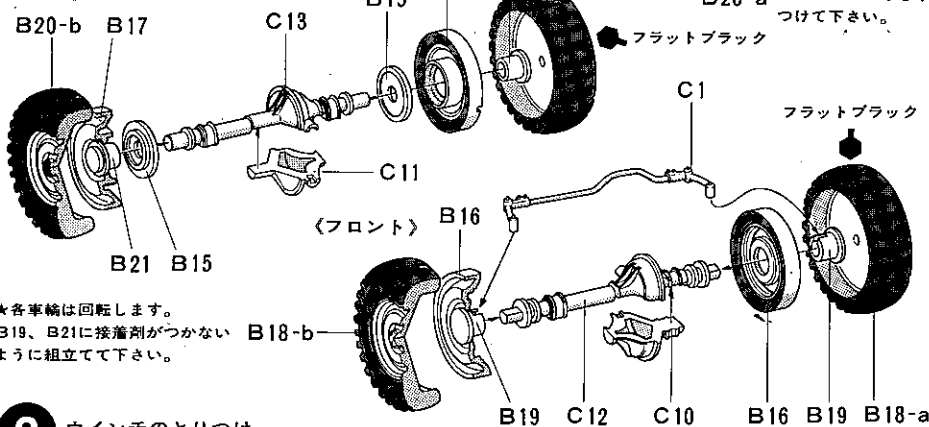
重量：3996kg



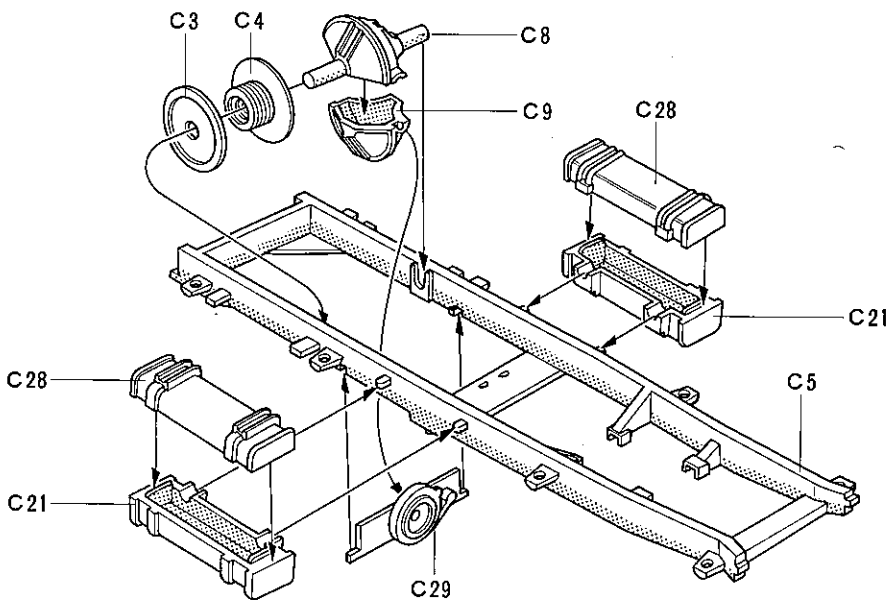
〈クォード ガントラクターのくみたち〉

1 アクスルのくみたち

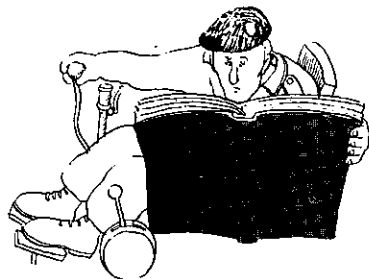
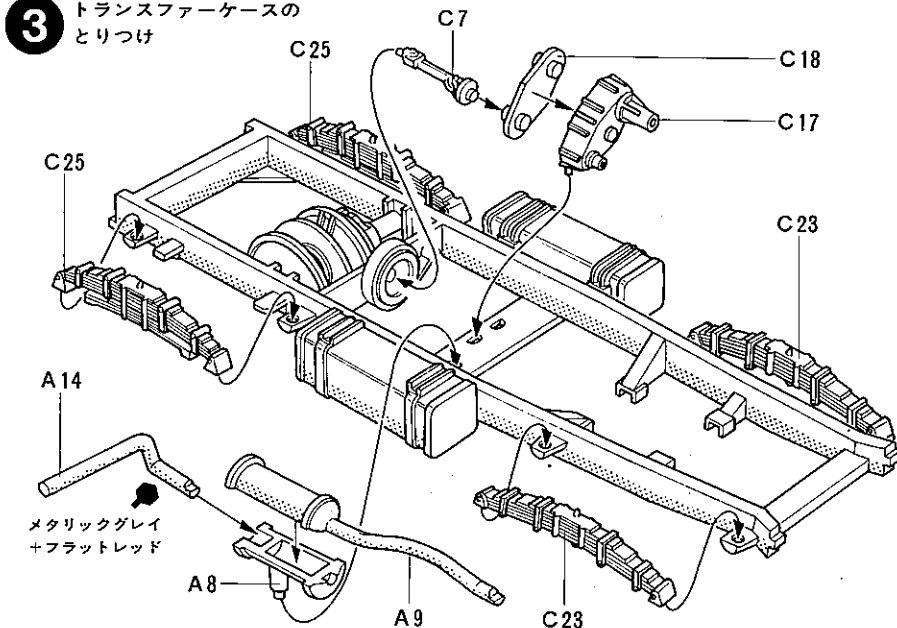
〈リヤ〉



2 ウィンチのとりつけ



3 トランスファーケースのとりつけ



★このキットからはクォードガントラクターと25ポンド砲が組み上がります最初にクォードガントラクターを組み上げてから25ポンド砲の組み立てに移して下さい。

★ナイフ、ピンセット、ヤスリ等を用意して下さい。

★部品をランナーから切りはなす場合手でもぎとらないでニッパーやナイフでいねいに切り取って下さい。

★接着剤はあまり多くつけずに少しづつ両面につけましょう。

1 〈アクスルのくみたち〉

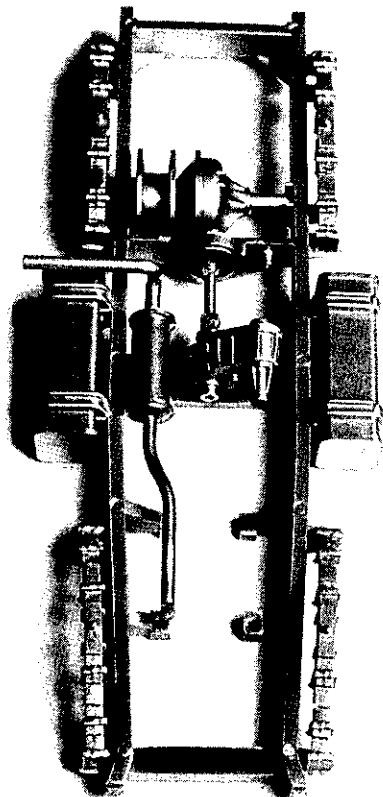
タイヤ、B18、B20には左右があります、番号を確かめてから取りつけて下さい。

2 〈ウィンチのとりつけ〉

ウィンチホイールC3、C4は回転しますから接着剤をつけすぎないようにして下さい。部品C29を先にシャーシーに接着してから、C9、C8をとりつけます。

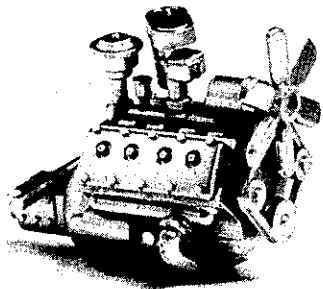
3 〈トランスファーケースのとりつけ〉

トランスファーケース、前後のスプリングを接着します。マフラーは、A8、A9、A14を組み立てた後、③でエンジンと共に接着してもよいでしょう

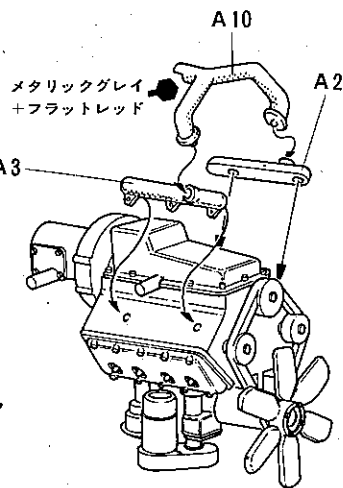
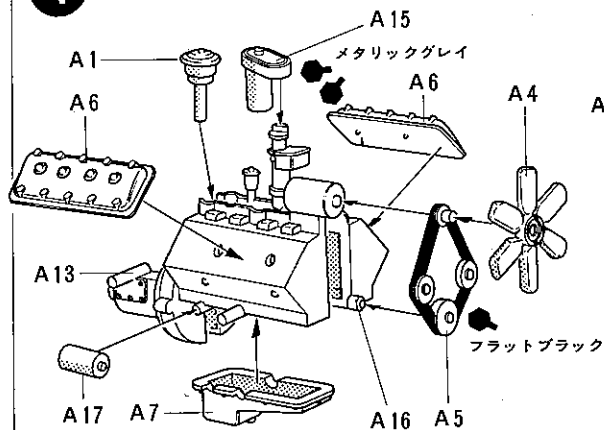


4 <エンジンのくみたて>

エンジン本体、A13、A16を接着してから、各部品をとりつけます。排気管A10は⑤で取りつけるマフラーA9と接着しますから、⑥のエンジンの取り付けまで接着しなくてもよいでしょう。

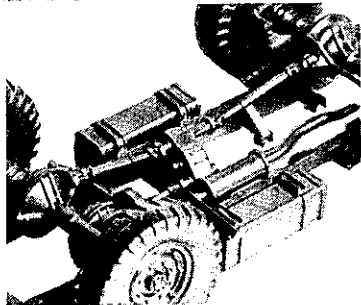


4 エンジンのくみたて

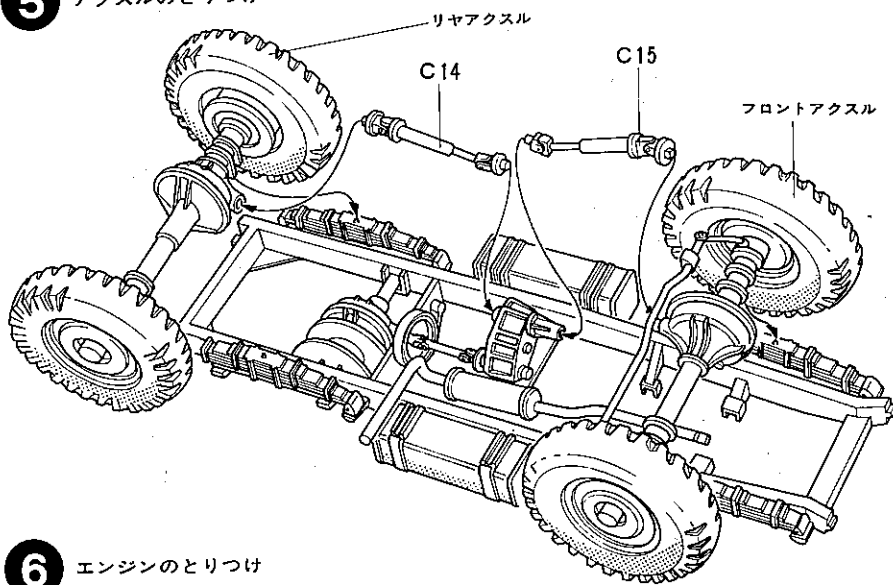


5 <アクスルのとりつけ>

①で組み立てたフロント及びリヤアクスルをスプリングに接着します。この時、プロペラシャフトを同時に取りつけます。プロペラシャフトの取付け角度に注意して下さい。

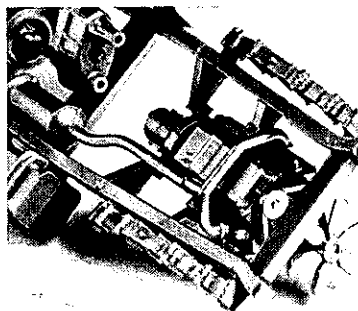


5 アクスルのとりつけ

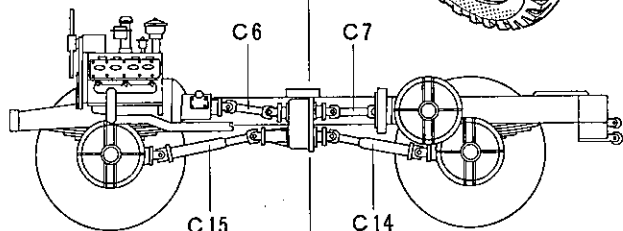
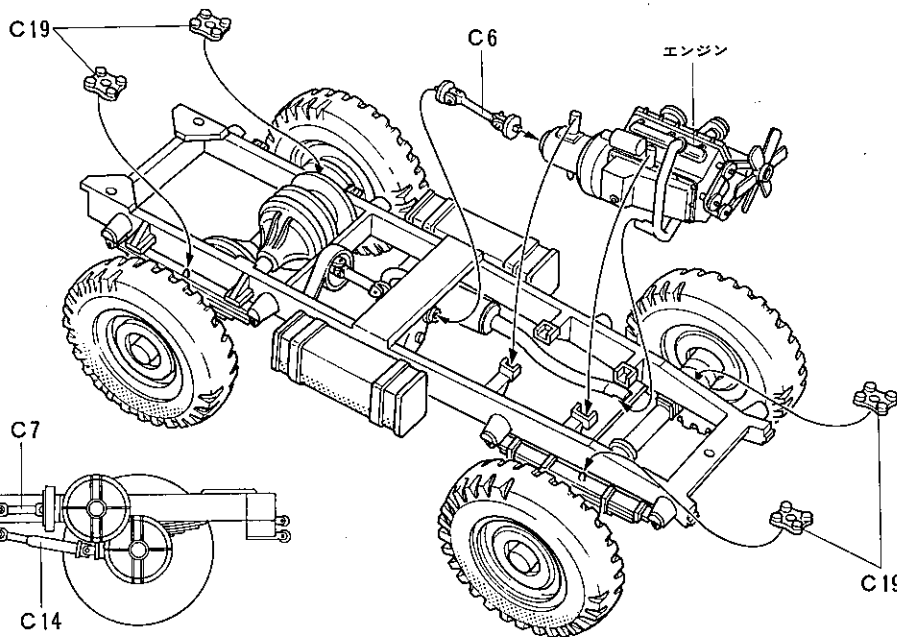


6 <エンジンのとりつけ>

エンジンをシャーシーにとりつけると共に、排気管とマフラーを接着して下さい。スプリング部品C19はピンセット等を使用して接着して下さい。

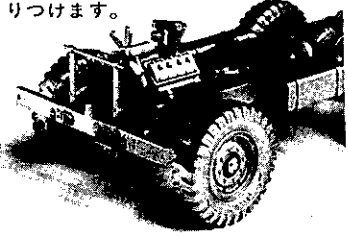


6 エンジンのとりつけ

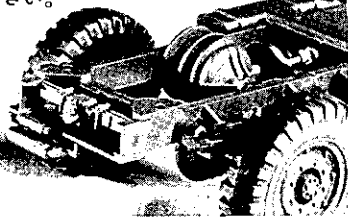


各プロペラシャフトの角度に注意してとりつけて下さい。

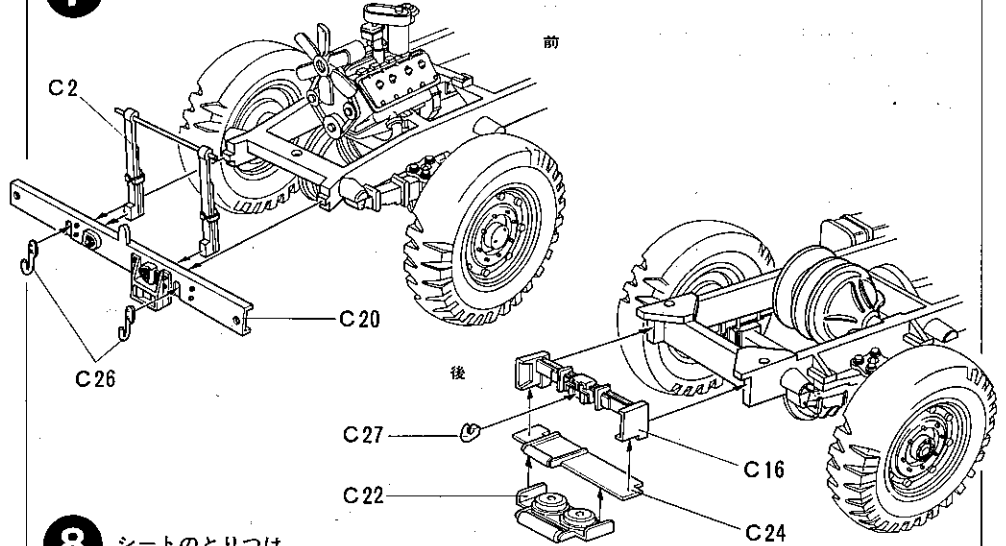
7 〈フロントバンパーのとりつけ〉
C2ラジエタープロテクターをバンパーに接着した後、シャーシーに取り付けます。



〈ウィンチローラーのとりつけ〉
各部品C16、C22、C24、C27を組み立てた後にシャーシーに取り付けて下さい。

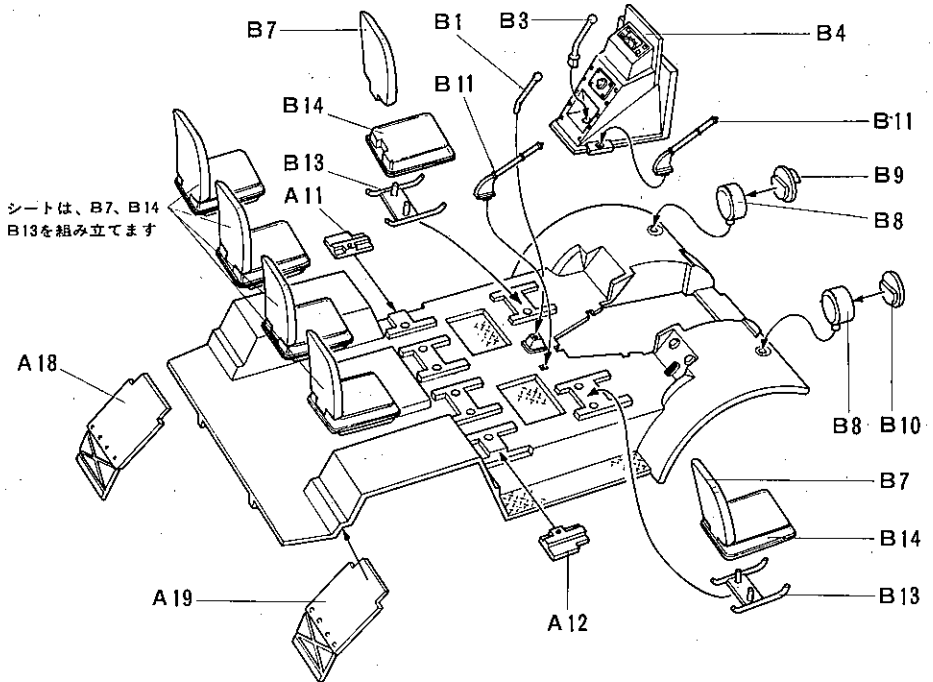
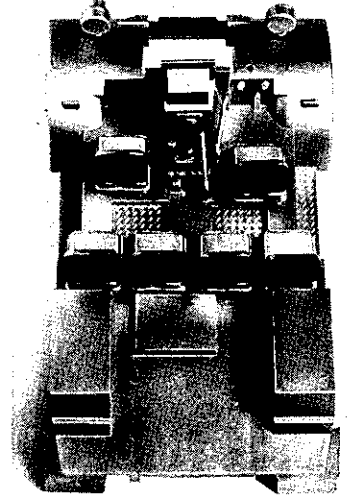


7 フロントバンパーとウインチローラーのとりつけ

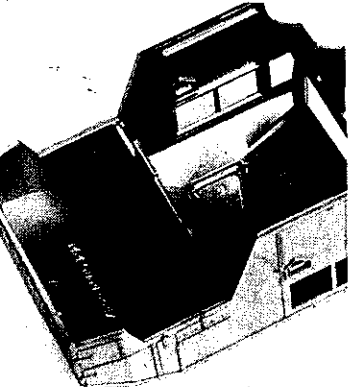


8 シートのとりつけ

8 〈シート〉のとりつけ
シートは同じものを6個組み立てます。後部シートは、部品A11、A12を接着した後にとりつけて下さい。

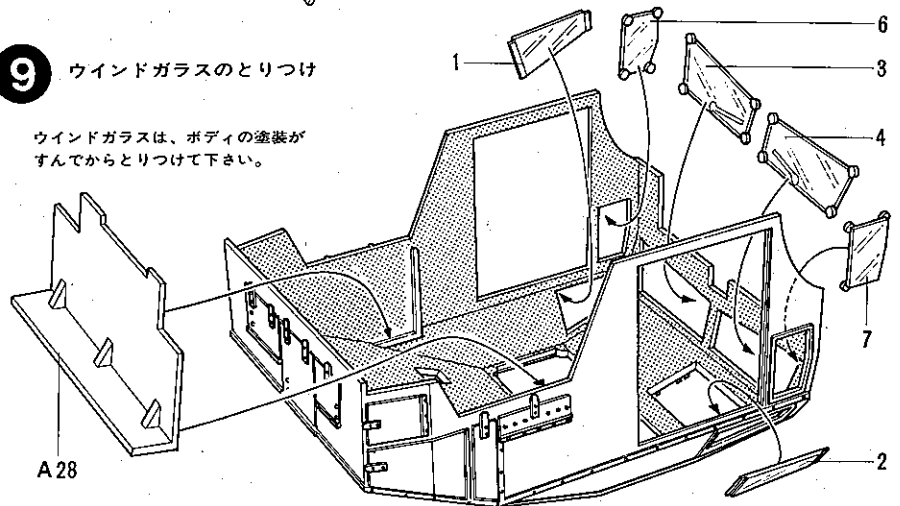


9 〈ウインドガラスのとりつけ〉
A28をボディに接着した後にウインドガラスを取り付けますが、ボディを塗装した後に接着しましょう。



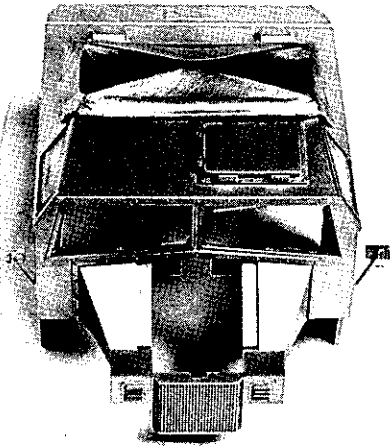
9 ウインドガラスのとりつけ

ウインドガラスは、ボディの塗装がすんでからとりつけて下さい。



10 〈ボディーのくみたて〉

ドア、A24、A25と、ハッチA22は開閉どちらかの状態を選んで接着して下さい。ホロA20、A21と部品A23は、接着しないで、とりはずした状態でもよいでしょう。



10 ボディーのくみたて

A22は開閉どちらかを選んでとりつけます。

レンズ・クロームシルバ

B5

A30

A26

A29

B6

ドアA24、A25は開閉どちらかを選んで下さい。

5

A24
反対側
A25

11 〈コードガントラクターの完成〉

はじめに人形を組み立てます。人形の腕とハンドルを合せながらシートに接着します。ボンネットA27は接着しません又、ボディーとシャーシは接着しないで別々に飾り、軍用車輛のメカニズムを楽しんでもよいでしょう。

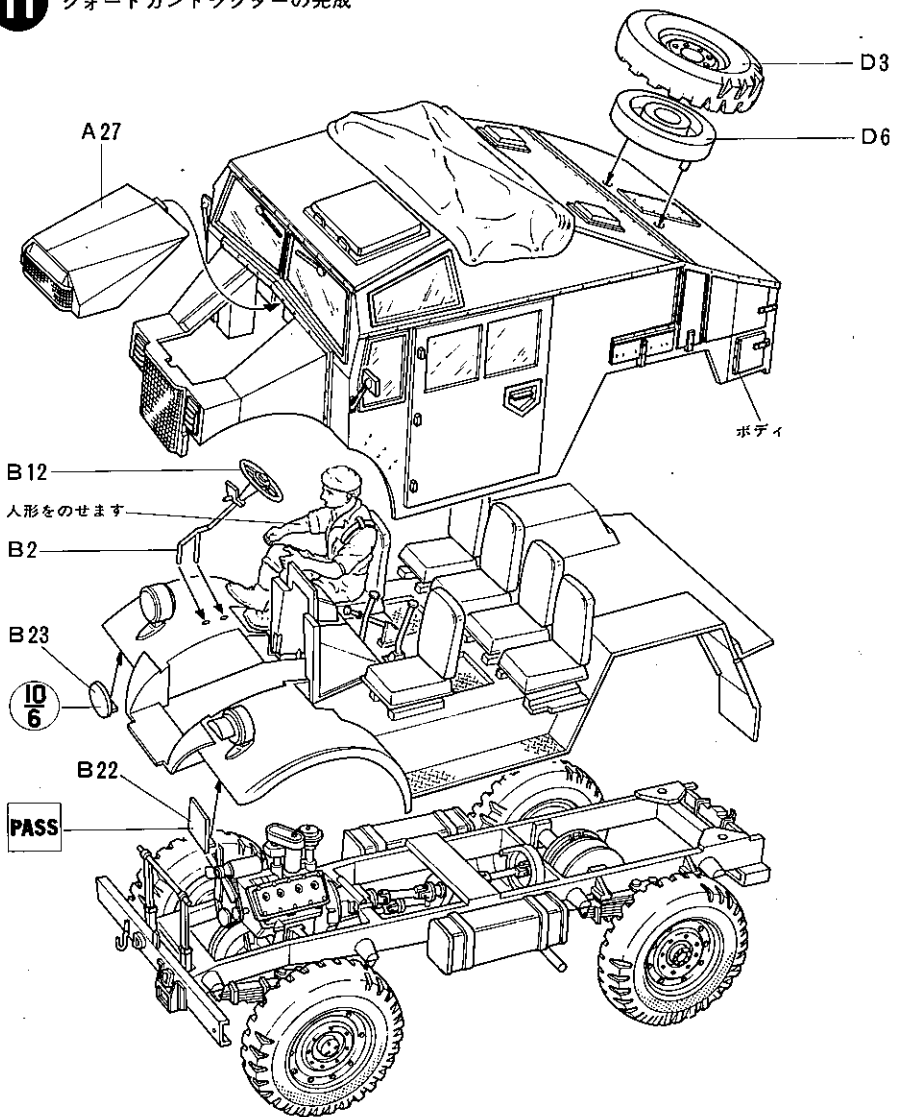
11 コードガントラクターの完成

〈人形のくみたて〉



〈塗装のコツ〉

コード全体は、ダークイエローに塗られています。雨やどろ等のよごしを車体に塗り実感を感じましょう。又デファレンシャル等に出る油のシミ等は、シンナーにごく少量の黒を溶かして塗ってみましょう。

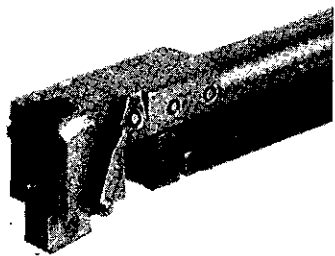


家庭用品品質表示法による検査商品表示
取扱い上の注意
1. 幼児の手の届かないところに保存し、いたずらをしてほしくない様注意して下さい。
2. 火気に注意し換気をよくして下さい。
3. 故意に吸わない様注意して下さい。
表示者 S.Z.3000 S.Z.3006・S.Z.5013

部品を取出した空袋は、幼児が噛んだりしない様に破りずして下さい。

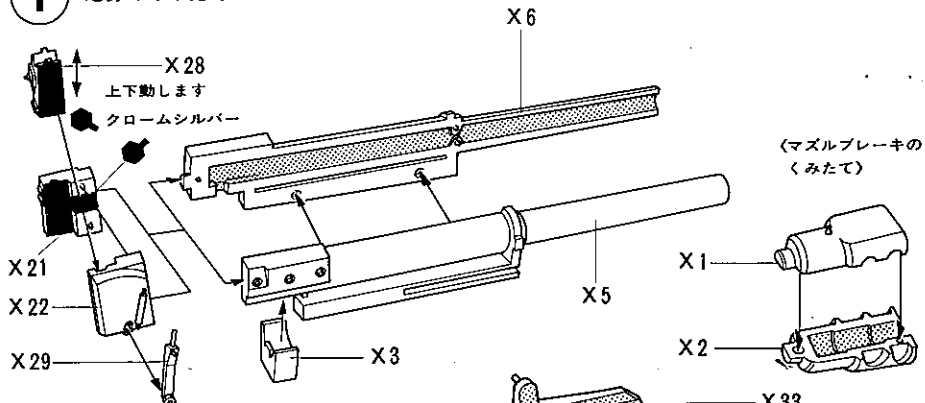
① 《砲身のくみため》

砲身 X5、X6と機関部 X21、X22を組み立てておいてから両方を接着します。X28は上下動しますから接着しないでさし込んでおきます。

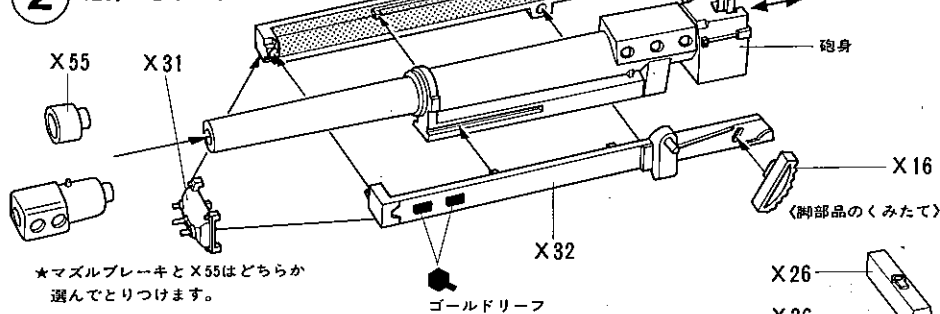


《25ポンド砲とトレーラーのくみため》

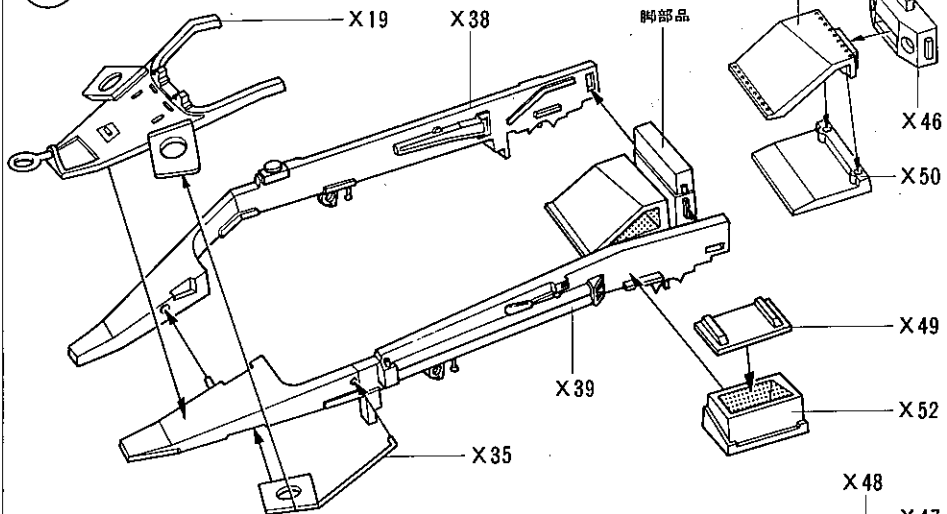
① 砲身のくみため



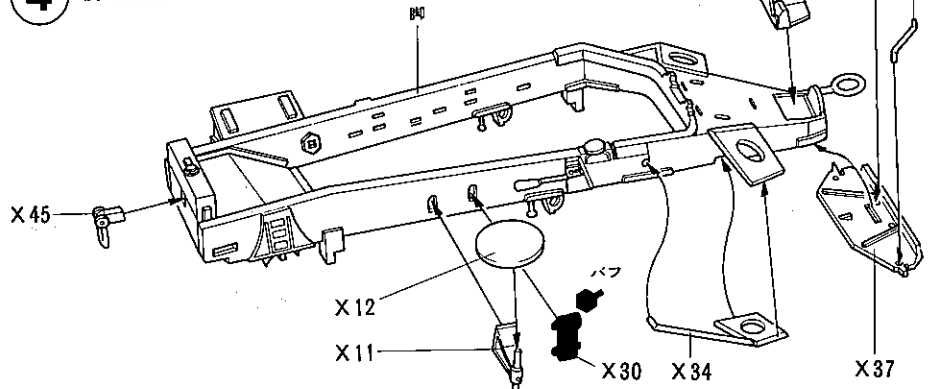
② 砲身のとりつけ



③ 脚のくみため



④ 脚の完成



② 《砲身のとりつけ》

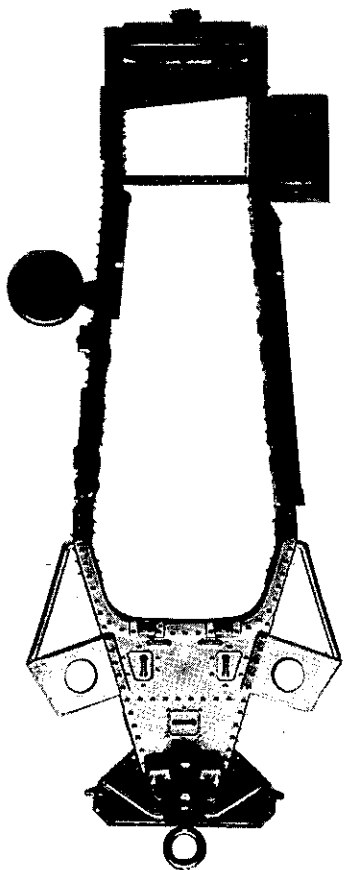
X32、X33で砲身をはさみこみます。マズルブレーキとX55はどちらか選んでとりつけます、X55は初期型、X1、X2は後期型です。

③ 《脚のくみため》

X38とX39を接着しX19をとりつけます。X38、39とX19の接着面はヤスリ等で平らにしてからとりつければきれいに仕上がります。

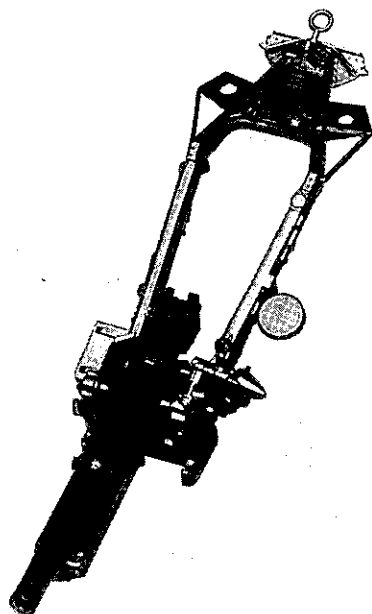
④ 《脚の完成》

X37にX47、48を取りつけてから脚にとりつけます。

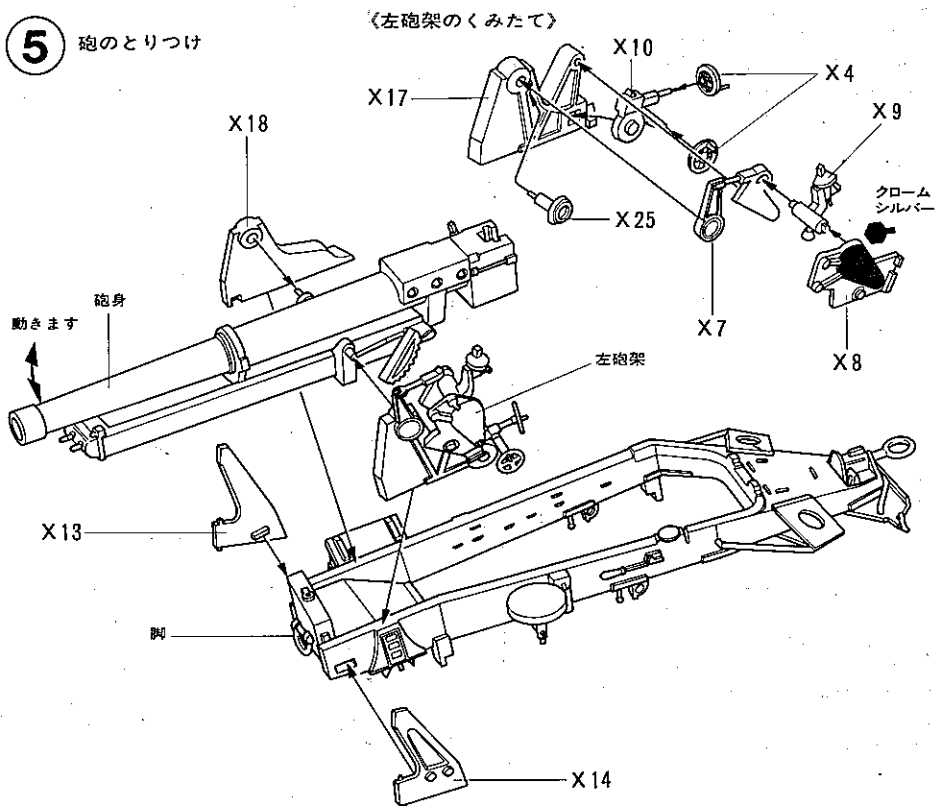


5 《砲のとりつけ》

左砲架を組み立てるときは各部分のとりつけ位置及び番号を確かめてとりつけて下さい。又 X13、14は砲身をとりつけてから、接着して下さい。



5 砲のとりつけ

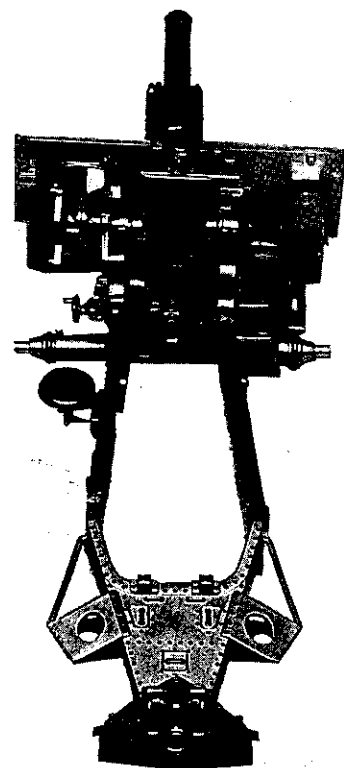


6 《防弾板のくみため》

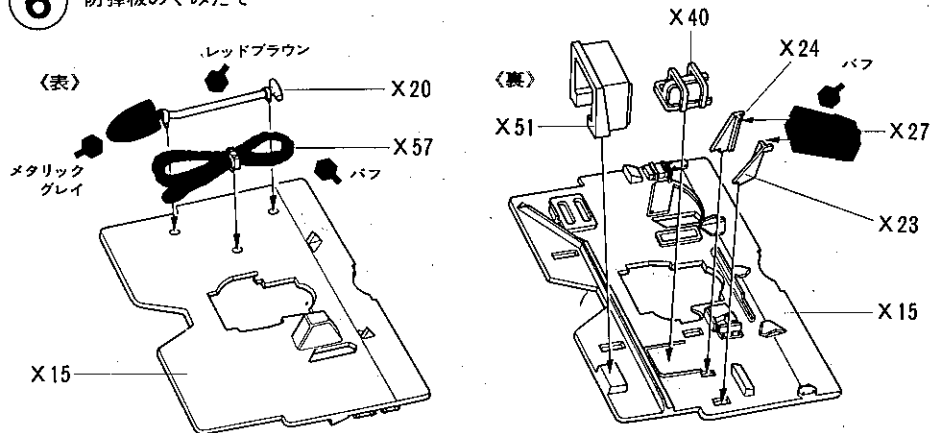
防弾板 X15には裏表とも各部品がとりつけられます。

7 《防弾板のとりつけ》

防弾板は X13、14にとりつけられます。又 X56は射撃時の方向転換のとき使用する柄です、射撃時の25ポンド砲を作る時にとりつけて下さい。

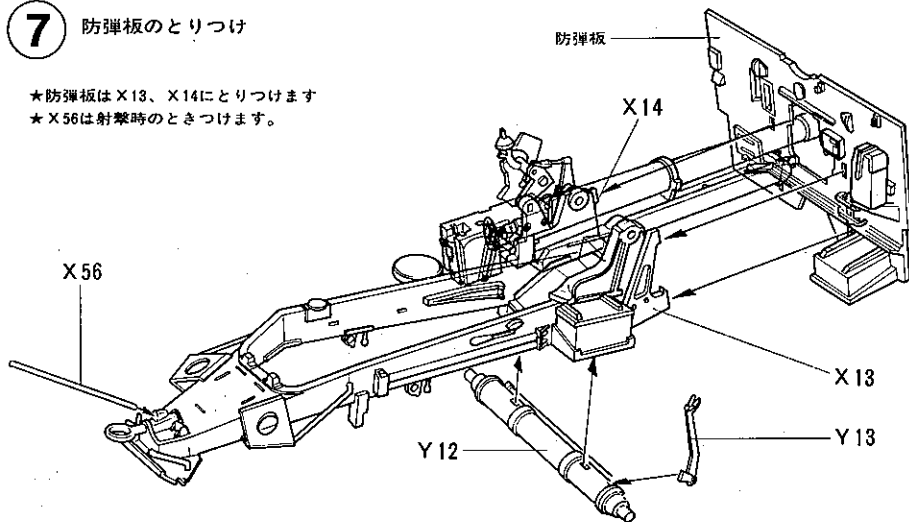


6 防弾板のくみため



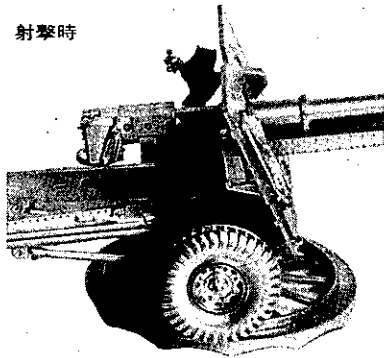
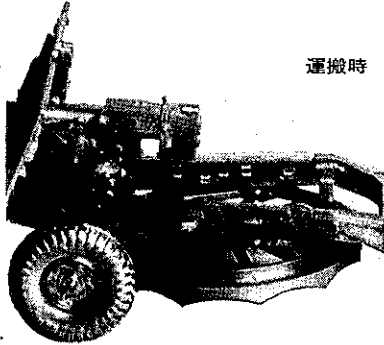
7 防弾板のとりつけ

★防弾板は X13、X14にとりつけます
★X56は射撃時のときつけます。



8 〈ホイールと射撃台のくみため〉
 ホイールは25ボンド砲用2個とトレーラー用2個の計4個作ります。射撃台は射撃時と運搬時によって2種のくみためができますあなたの作る状態によって選んで下さい。又射撃台は射撃時の方向転換を楽にするためとりつけられたものです。

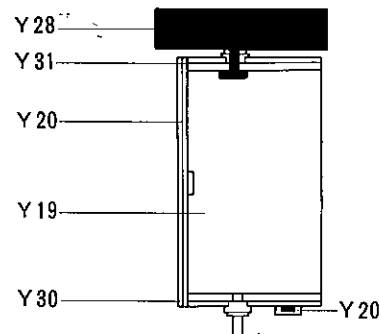
9 〈射撃台のとりつけ〉
 下の写真は射撃時と運搬時の射撃台の位置です、写真を参考にしてとりつけて下さい。



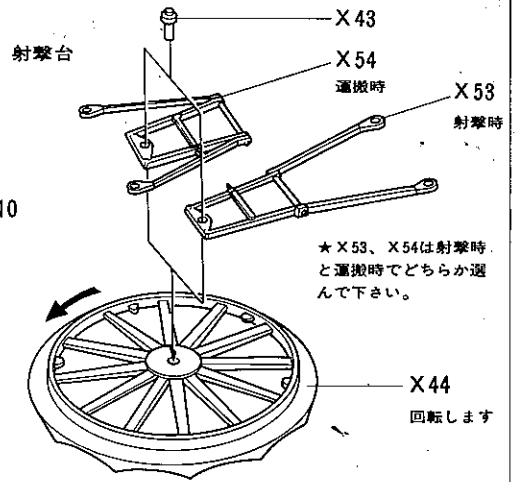
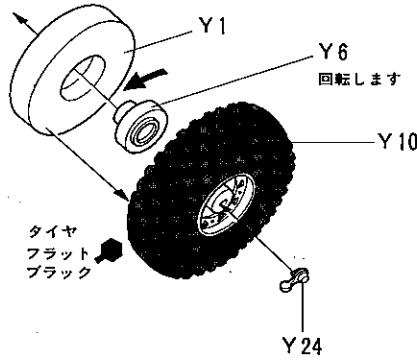
10 〈トレーラー部品のくみため〉
 Y2、Y3とY4Y5はどちらか選んでとりつけます、Y2、Y3が運搬時、Y4、Y5が射撃展開時です。

11 〈トレーラーのくみため〉
 Y27をY30にとりつける前にY20をとりつけておきます。

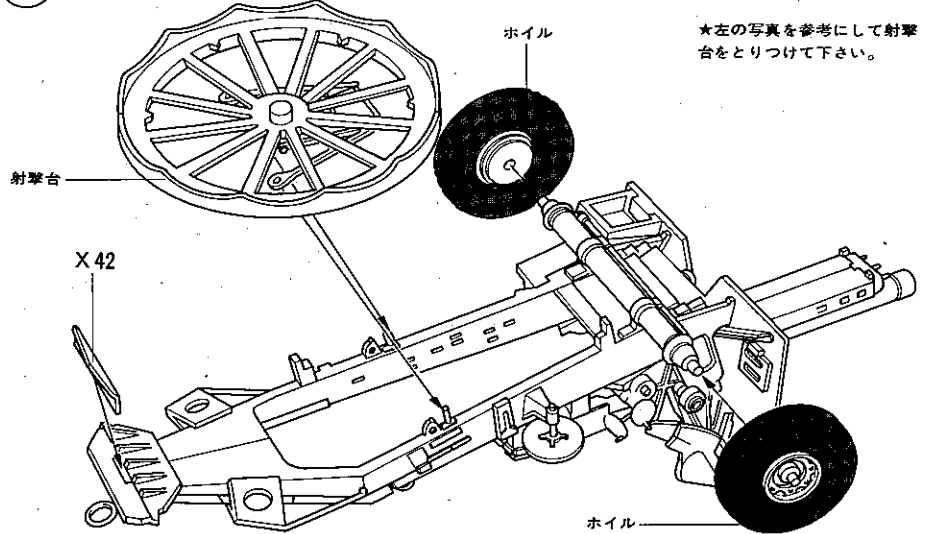
〈フェンダー取付け図〉



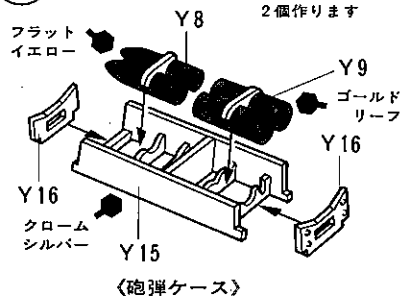
8 ホイールと射撃台のくみため
 ホイール 4個作ります



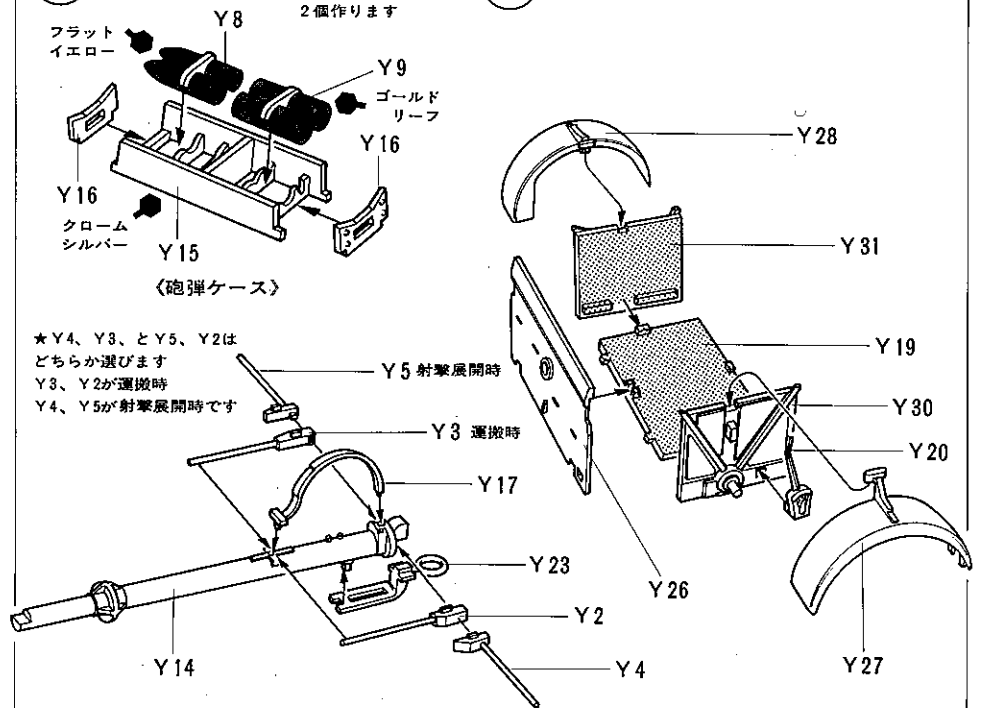
9 射撃台のとりつけ



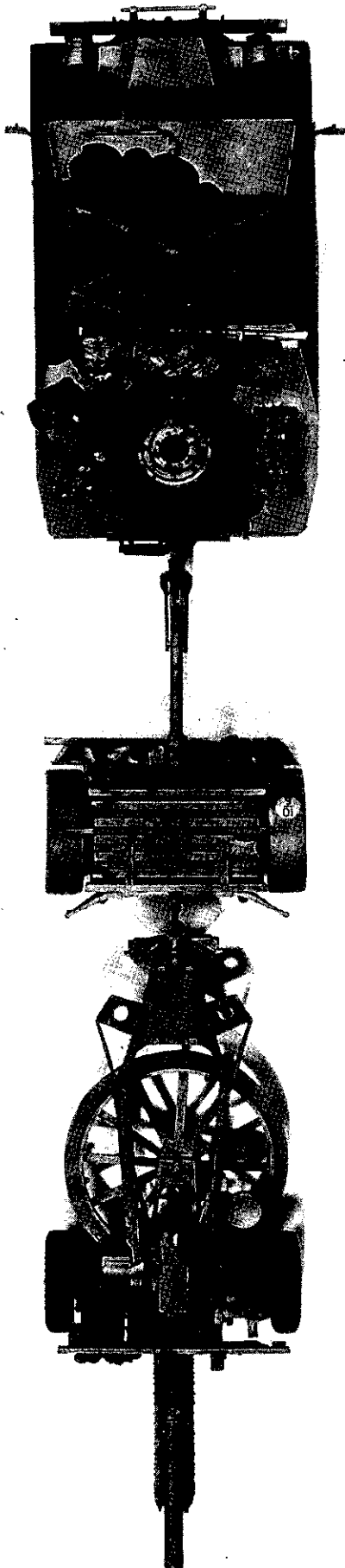
10 トレーラー部品のくみため



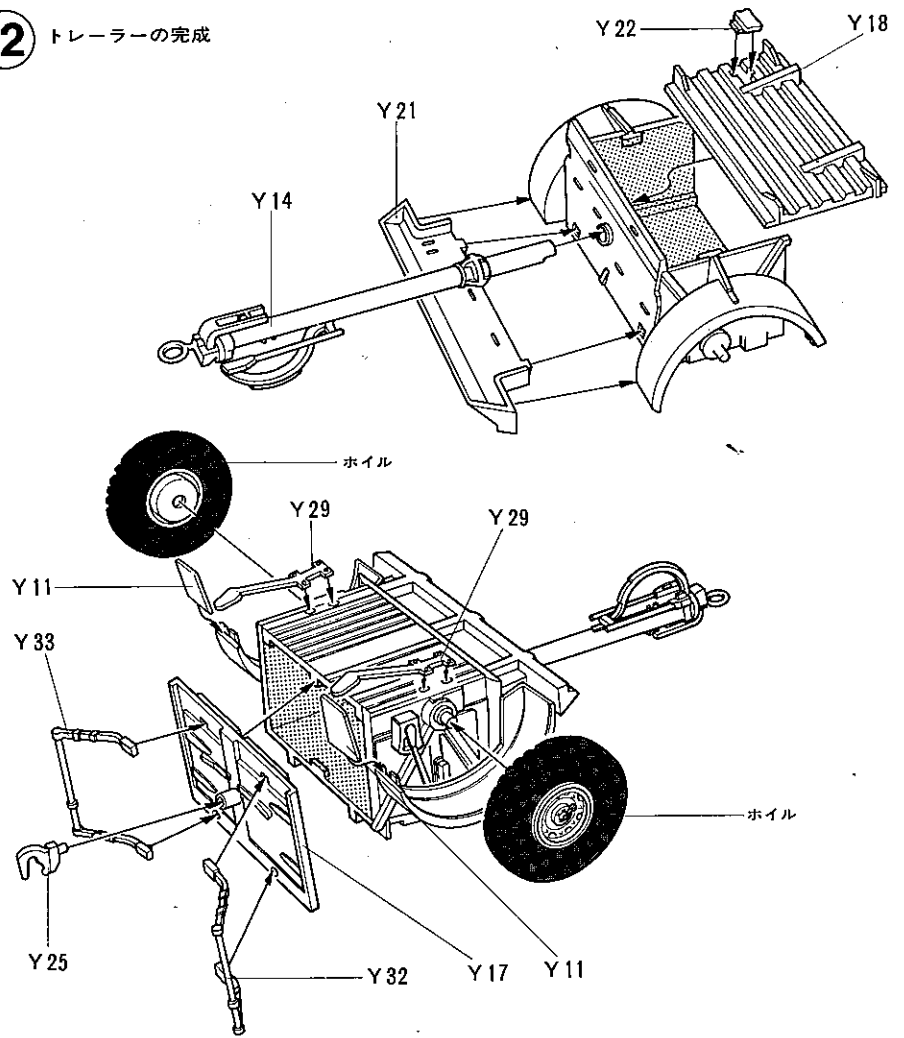
11 トレーラーのくみため



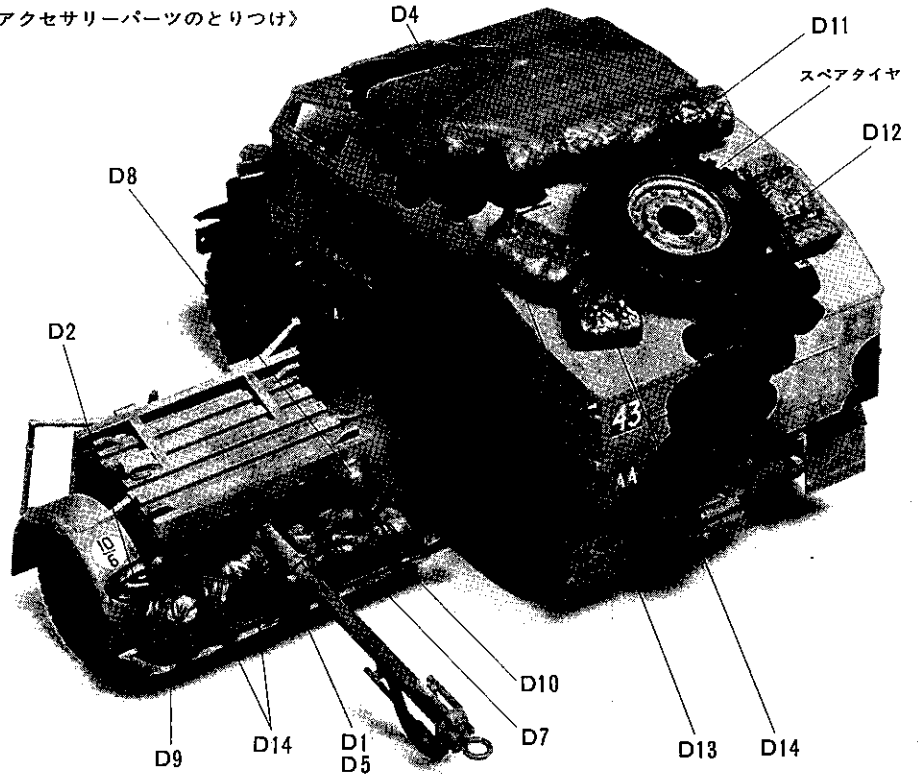
12 <トレーラーの完成>



12 トレーラーの完成



<アクセサリパーツのとりつけ>



PAINTING



APPLYING DECALS

〈クオードの塗装〉

クオードにかざらず、軍用車輛の塗装は戦線の風土に合せた迷彩を使用し、周囲の風景にとけ込ませ、めだたないように工夫されています。イギリス軍の使用したクオードは、アフリカ戦線においてダークイエローの基本車体色にブラックもしくはダークグリーンのミッキーマウスパターン（ミッキーマウスの耳の形をした雲形の迷彩）が多く使用されていました。カナダ軍の場合にはダークグリーンの単一塗装でした。

〈クオードのマーキング〉

北アフリカに編成された当時のイギリス軍のマーキングと、ヨーロッパに派遣されたカナダ軍のマーキングです。

カナダ軍のマーク

- 編制サインです、このサインはこの車輛を管轄する編制を示します。
- 43** ● 兵科マーク
- AA** ● 戦術マーク

イギリス軍のマーク

- 第8軍で使用された旅団マークです有名な「砂漠のネズミ」としてアフリカ的全戦線を通じて活躍しました。
- A1**
- A2**
- (1) ● 戦術マーク(上)と兵科マーク(下)が結合したものです。これにより(1)は野戦砲兵連隊第1大隊の指揮官車、(2)は第2大隊の指揮官車であることがわかります。
- 74**
- 74**

その他のマーク

- 10/6** ● 橋梁荷重クラスナンバー（ブリッジクラス）です。これは橋を通過する際の限界重量を示し、6はこの車輛のみで通過、10は25ポンド砲を牽引した場合を示します。
- PASS** ● これはこの車輛の通行許可を示すものです。

14WD ● 車輛行軍番号です、チョークで書かれていました。

車輛番号

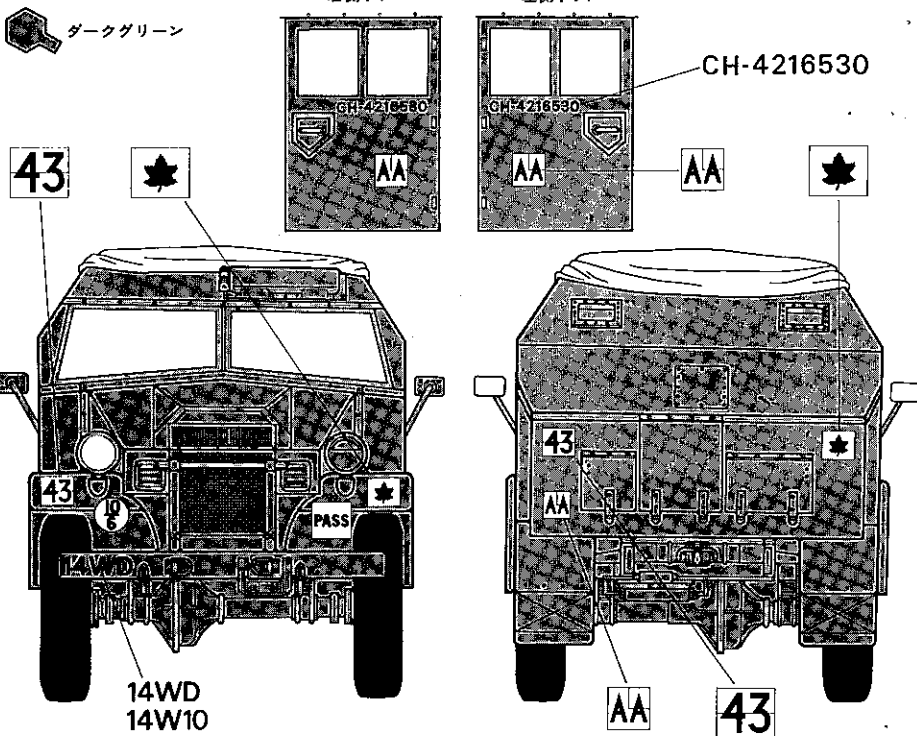
- (L——) ● イギリス軍
- (CH——) ● カナダ軍

TANK COLOR

- ダークグリーン……DARK GREEN
- レッドブラウン……RED BROWN
- オリーブドラブ……OLIVE DRAB
- ダークイエロー……DARK YELLOW
- ジャーマングレー……GERMAN GREY

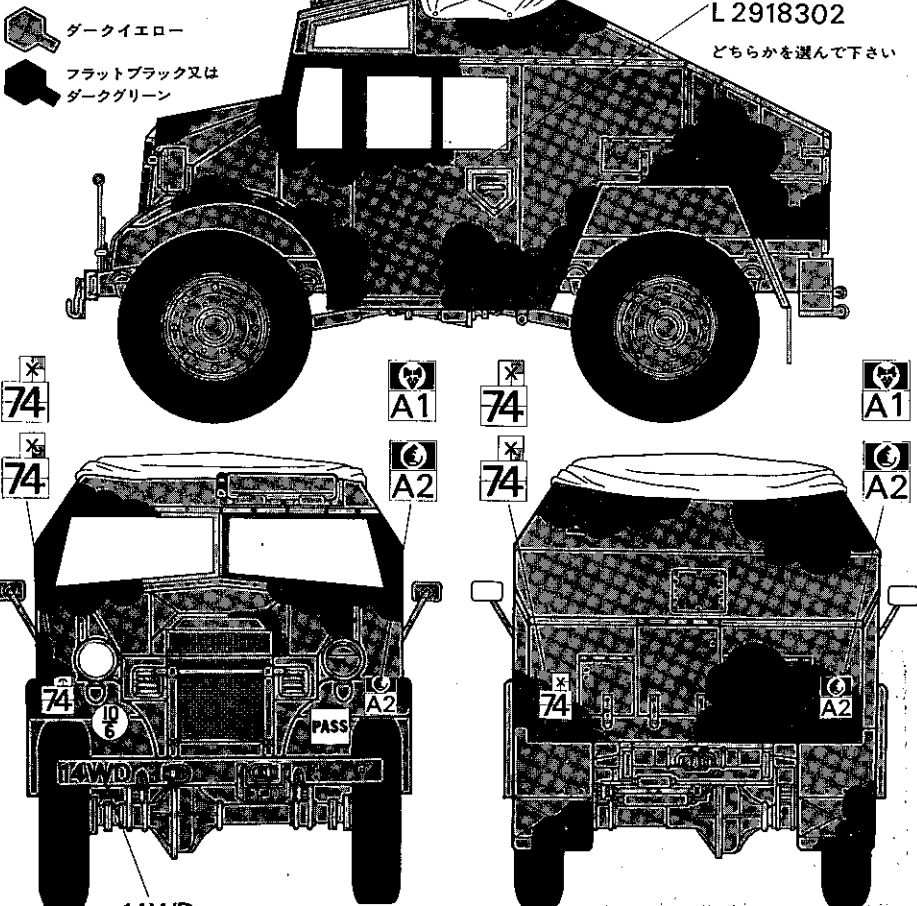


カナダ第1歩兵師団の場合



イギリス第8軍で使用された指揮官車の場合

迷彩のミッキーマウスパターンは、車体上部にも塗られていました。



マークは2種類の内どちらかを選んでつけて下さい。

PAINTING

APPLYING DECALS

〈25ポンド砲の塗装〉

25ポンド砲は1940年のドイツ軍フランス進攻作戦から1950年の朝鮮戦争までという長い期間を通じて使用されました。その間さまざまな前線でそのさまざまな風土に合わせた塗装がなされていますが、一般的にダークグリーンが基本色となっています。又アフリカ戦線では他の軍用車両と同じようにダークイエローの単一の塗装がなされています。

〈使用する塗料〉

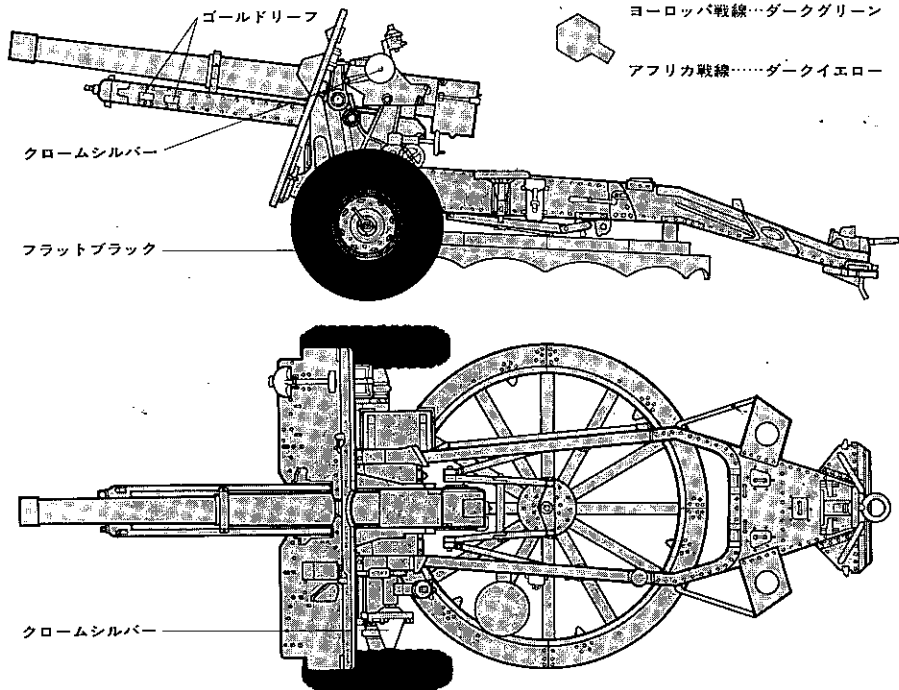
大きな面を塗装するときはスプレー式のタンクカラーが便利です。又細部の塗装は筆塗りのパクトラタミヤを使用しましょう。各部の塗装はパクトラタミヤカラーで指示してあります。

フラットブラック	XF1
フラットホワイト	XF2
フラットレッド	XF7
メタリックグレイ	XF56
ダークイエロー	XF60
ダークグリーン	XF61
クロームシルバー	X 11

★細部の塗装は組立て図中に指示してあります。

パクトラタミヤ

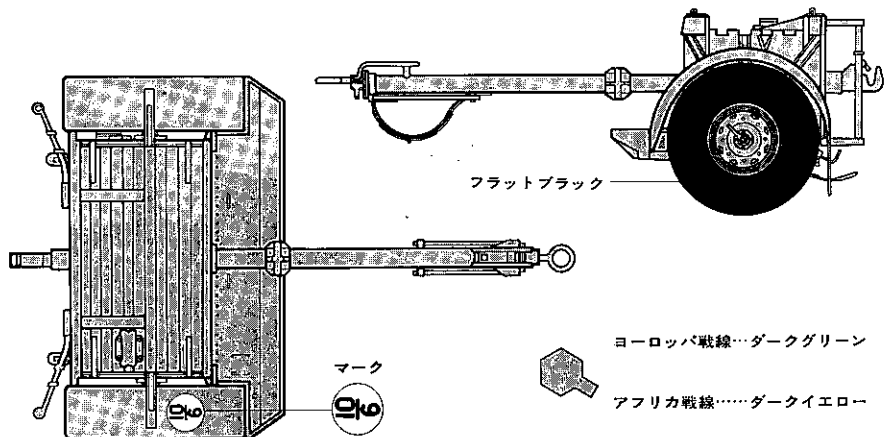
〈25ポンド砲の塗装〉



ヨーロッパ戦線…ダークグリーン

アフリカ戦線…ダークイエロー

〈トレーラーの塗装〉



ヨーロッパ戦線…ダークグリーン

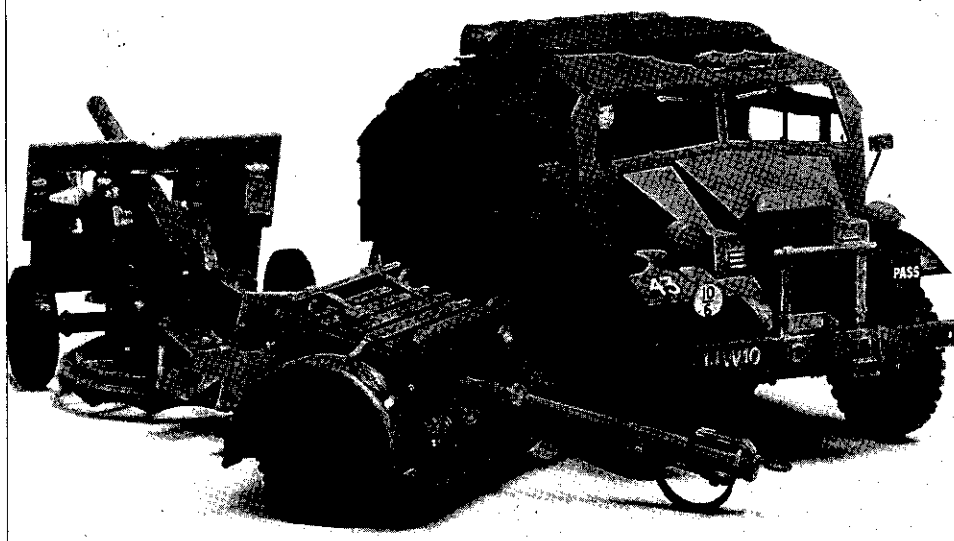
アフリカ戦線…ダークイエロー

BRITISH 25PDR. FIELD GUN & QUAD GUN TRACTOR

部品を紛失したり、破損なされた方は、このカードの必要部品を丸でかこみ代金を現金書留で田宮模型企画部検査課にお申し込み下さい。

価格が変更されます

3部品の値上りのため
 郵送料金の値上りのため
 一部の価格が変わります
 詳細を請求される場合は
 係迄料金をお問い合わせ下
 さる様お願いいたします



★ ★ 田宮模型
 静岡市小鹿 628 〒422